

かもちゅう らいぶらい通信 2023.6

雲南市立加茂中学校 図書館



始業式、入学式、GW、ブロック大会…気が付いたら、もう6月。

今年は、例年より**アツ**という間に毎日が過ぎていくように感じます。

『かもちゅうらいぶらり』では、図書館での生徒の様子を中心に伝えたいのですが、「おすすめの本を紹介してほしい」というご意見もいただきました。普段は、図書館内や階段スペース、教室前などでテーマを決めて、校内用のPOPやポスターを作成し紹介をしています。学習用・生徒向け読書用の紹介が主ですが、今回はテーマを決めず個人的に良かった本をおすすめします。(学校司書 窪田)



『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬 早川書房 496 ㊞ ISBN:9784152100641

昨年話題になった作品です(アカサクリティ賞、本屋大賞など受賞)。ソ連が舞台のおはなしで、まずは登場人物の名前を覚えるのに苦労しましたが、物語序盤から一気に引き込まれました。生きるた

め、復讐のため家族の敵とともに生活し、狙撃手として成長する主人公。今起こっている戦争で、彼女のような境遇の子もいるのではないかと、心が苦しくなる作品でした。



『ときめく心 中学生の相聞歌』

桔梗亜紀 水曜社 192 ㊞ ISBN:9784880654911

著者は、松江の中学校の元先生で、NHK 教育テレビ『わくわく授業～桔梗亜紀先生の国語』(2006 年放送)で国語の授業の様子が放映されました。思春期の中学生たちの恋ごころ 88 編。現役の中学生よりも、むしろ大人たちが青春時代の自分のアレコレを思い出し、赤面し悶える一冊となっています。性別関係なく、生徒は友だち同士または一人でじっくり

エモさに震えたあと、家に持ち帰り家族にさりげなく紹介し、読んでいる様子を眺めたり、家族の恋バナを聞き出して楽しんでください。



『自分のミライの見つけ方』

いつか働くきみに伝えたい「やりたいこと探し」よりたいせつなこと』
児美川孝一郎 旬報社 196 ㊞ ISBN:9784845117017

キャリア教育、職業調べの参考資料でいれたものです。「なりたいたい自分に近づく努力の方法」のテーマのものは、大人の言うことが正しい、現状が変化しないことが前提のものが多いですが、〈そうじゃない可能性もある〉と自分で考えるキッカケになる一冊です。1 ページの文字数も程よく、むずかしい言葉も少ないと思います。大人になって価値観が固まってしまう前にぜひ！

【もくじを一部紹介】

1 章 フツーを疑えば、きみは少し自由になる 2 章 その仕事は 10 年後には消えている？ 3 章 「働きたくない」は許される？

小説以外の本を読むときは、もくじをチェックすると、興味が持てそうか・調べたいことがあるのかわかります



『12歳の少女が見つけたお金のしくみ』

泉美智子 宝島社 192 ㊞ ISBN:9784299005052

2022 年より高校の家庭科の授業で「お金」の勉強がスタートしました。「むずかしそう」と思うかもしれませんが、小学校で人気の「ひみつ」シリーズ感覚で読める、お金の超基本のいい本を見つけたました！

この本は、12 歳の子(著者とは別の人)の『モノの値段を考える』というテーマの調べ学習がもとになっています。「インフレ・デフレの困ることって何?」「家事を代わってもらいたい母・家事労働の値段」「ペットの命・命の値段、景色・空気水の値段」など。マンガと解説とコラムで構成されています。マンガ部分はもちろん、解説部分も短くわかりやすいことばで書かれています。(大人の「わかりやすい」はあてにならないかもしれませんが…)

※書影は、図書の紹介で利用できるものを著作権の範囲で使用しています。